『アマゾン川委員会』

伊地知克介

登場人物 男13人、女6人

【登場人物】

馬場 地上げ屋。 兄貴分

八木 地上げ屋。 弟分

バナさん アフリカ出身の占い師

鹿田 外務官僚

牛山課長 外務官僚。 鹿田の上司。

サラ カンボジア難民の少女

啓子 バナさんへの依頼者。 シングルマザー

流羅 啓子の息子

小林 組織の男

チャン 中国人の地上げ屋／歩いてくる男1

健一 バナさんへの依頼者。 水族館勤務

富樫 ナゾの男

シュウ 中国人の地上げ屋／歩いてくる男2

朗読者1 無国籍

朗読者2 日本人

朗読者 3 ドイツ人
朗読者 4 米国人
朗読者 5 スウェーデン人
朗読者 6 インドネシア人

この劇は「そのバックネットのバランス」(4エピソード)「水と魚と人をのろう女」(3エピソード)「あまりにも多くの人ベンチに」(1エピソード)「バッターズ」(3エピソード)「巨大彗星の回避」(1エピソード)、エピソード (1エピソード)の6話13エピソードで構成される。

「バッターズ」は役柄を離れ、若者たちのフェイスブックのメッセージ機能を使った会話を舞台で読み上げる形で進める朗読劇である。朗読者1〜6は他の役と兼ねてもよいが、別人格であることははっきりと示す。

「歩いてくる男1, 2」も同様で他の役と兼ねて良いが、別人格であることは示す必要がある。

エピソードの順序は以下のとおり

- 1 そのバックネットのバランス1
- 2 水と魚と人をのろう女1

- 3 あまりにも多くの人がベンチに
- 4 バッターズ 1
- 5 そのバックネットのバランス 2
- 6 水と魚と人をのろう女 2
- 7 バッターズ 2
- 8 そのバックネットのバランス 3
- 9 水と魚と人をのろう女 3
- 10 バッターズ 3
- 11 そのバックネットのバランス 4
- 12 巨大彗星の回避
- 13 エピローグ

(舞台上の設定) バックネットがあり、男 2 人がつかまっている。周囲にいすが 3 脚ある。いすなどを動かすことで、舞台は外務省の会議室になったり、バナさんの「占いの部屋」になったり、野球場になったりする。

場面は 2014 年を基本に過去や未来へ動く

第 1 場 そのバックネットのバランス 1

バックネットにつかまっている男たち。

ここは過疎が進み、廃棄された村営の野球場。周辺には人もすまなくなっているよ
うだ。使われなくなつてから相当の時間がたっているらしく、バックネットはぼろぼ
ろである。男たちはバックネットの裏と表に 1 人ずつ、つかまっている。

馬場 どないなつとんねん。八木か。小林か、そこにおるんは。どちやねん。
八木 八木です。見えないんですか。
馬場 めがねどつか落としてもうたんや。八木かおまえ。熊はいるんか。
八木 熊います。真下!。
馬場 「います」、なんか。「いました」なんか。どちやねん。
八木 は?
馬場 はつきりせえよ。「います」なんか、「いました」なんか、現在形なんか、過去形なんか、どちや?
八木 「います」です。「います」。われわれの真下におるんです。こっち見えます。
馬場 小林は?どこや
八木 見なかったんですか?あれを。
馬場 なんか叫んでんのは聞こえた。小林熊に食われたんか。
八木 食われたのかどうかは分かりませんが。
馬場 なんや?
八木 熊に追いつかれて、のしかかられてんのは見えました。うわーいうて、それ以上は見えません。ぼく怖くて怖くて。
馬場 情けないやつや。
八木 先輩振り向きもしませんでしたやんか。
馬場 想定外やな。熊どっか行く気配ないか。
八木 こっち見えます。あ、バックネット登ろうとしてる。
馬場 (上に登って逃げようとする)
八木 先輩、やめてください。これ、倒れそうや。あ。
馬場 なんや。

八木 大丈夫、バックネットは登られへんみたいですよ。熊。
馬場 よかった。
八木 でもまだこっち見てますわ。
馬場 しっこいやつやな。
八木 ここにいれば大丈夫でしょう。先輩落ちんといってください。
馬場 落ちひんよ。
八木 このネット、ぐらぐらやから。
馬場 おれが落ちると、おまえの重さでそっちに倒れるか。
八木 たぶん。
馬場 おまえも絶対落ちんなよ。
八木 落ちませんよ。
馬場 八木おまえチャカ持ってへんのか。熊公撃ってまえや。
八木 チャカ？
馬場 拳銃やがな。持ってへんのか。
八木 今回の仕事はそんないらんって先輩言っていましたやん。
馬場 念のために持ってこようとか、そういう心がけはないんか。
八木 先輩は？
馬場 熊があきらめるまで、ここにおるしかないんやな。
八木 しゃあないですね。
馬場 ああ、腹立っな。(間) 八木。
八木 はい。
馬場 なんか場を和ますようなこと言えや。
八木 この場を？
馬場 他にどんな場があるんや。

八木 そんなん。言えません。
馬場 言えゆうとんねや。
八木 ええとですね。先輩。
馬場 何や。
八木 野球と野球拳と、どっちが好きですか。
馬場 野球拳ってなんや？
八木 野球拳知らんのですか？
馬場 知らんわ。なんやそれは。
八木 野球拳知らんって、先輩帰国子女ですか。
馬場 アホかおまえ。帰国子女のやくざなんて聞いたことも無いわ。その野球拳てなんやねん。
八木 じゃんけんをしてですね。
馬場 おう、じゃんけんをして。
八木 負けたほうが着てるもんを1枚1枚脱いでいくんですわ。
馬場 おう、それで。
八木 それで、全部脱いだ方が負けですわ。
馬場 それだけか。
八木 はい。
馬場 おれは、野球の方が好きやな。
八木 そうですか。
馬場 全然なごまへんやないか。
八木 すいません。
馬場 熊まだおるんか。
八木 あ。

馬場 おらんようになったんか。

八木 2匹に増えました。

馬場 あかんやないか。ここ野球場ちやうんか。熊の巣か？

八木 もう10年くらい野球してないんちやいますかね。なにもかも、ぼろぼろです
からね。

馬場 八木。

八木 はい。

馬場 映画の話せえや。

八木 はい？

馬場 おまえよう見てるやないか。話せや。気がまぎれるやろ。最近どんなん見てん。
先輩映画の話好きですね。

馬場 そうか？

八木 先輩の彼女がいうてましたよ。映画に連れてってくれなくせに、映画行け行
け言うし、行ったらどんなんやったって、やたら聞きたがるいうて。

馬場 彼女ってどの？

八木 え？

馬場 ターニア？

八木 いいえ。

馬場 アンジー？

八木 いいえ。

馬場 オゴンボ？

八木 なにじんですか？つーか、先輩何人とききあってるんですか。何カ国に彼女お
るんですか？

馬場 一応、全大陸目指しとんねん。

八木 南極が無理でしょ。

馬場 そうか。

八木 百合ちゃんですよ。女子大生の。

馬場 日本人か。

八木 粗末にせんといたってください。かわいいのに。

馬場 ほしかったらやるで。

八木 いりません。

馬場 羽が生えるんや。

八木 は？

馬場 映画の話を聞いてるとな、羽が生えてな、こう、自分の世界やない、もっと大

きな世界へ、飛んでいける感じがするんやな。だから好きなんや。

八木 ほんま、今は羽が欲しいっすね。

馬場 どうなんや。おまえ最近なんか見てへんのか。

八木 あんまりええの見てへんのですわ。変わったのばっかりで。

馬場 ええよ。変わったやつの話せえや。

八木 そうですね (短い間) 一番最近に見たのは

馬場 タイトルからいえや。

八木 「水と魚と人をのろう女」

馬場 なんじゃそりゃあ。

八木 アフリカから来た占い師、この人、ほんまは魔法使いなんですけどね。訪ねて

くる日本人の悩みを、この人がいろんな変わった魔法を使って解決していく話で

すわ。

馬場 話してみいな。

八木 ええんですか。そうですね。映画はこのバナさん、アフリカ人の女の人ですわ。

この人が日本で難民の認定を申請してね、外務省で職員と話し合っているところから始まるんですわ。

牛山、鹿田、バナが登場。

八木 それで外務省の牛山という課長が突然変なことを言い出すんですわ。

馬場と八木の背中に羽が生えてくる。

馬場 羽生えてきたで。

八木 これで飛べますか。

馬場 どやろな。映画の話、続けえ。

八木 分かりました。それでね。

第2場 水と魚と人をのろう女 外務省

外務省の会議室。牛山と鹿田がバナと向き合っている。

牛山 私はドラえもんというやつが大の苦手だね。

鹿田 は？

牛山 テレビで見ている分にはいいんだよ。あれは15分15分で短いだろ。原作も短編集なんだよね。困るのは映画館だよ。子どもが好きなんで、ときどき付き合わされるんだけどね。1時間40分もあると苦痛だね。何が苦痛 かって、どうしても疑問が出てくるわけだ。このピンチはどこでもドアで逃げればいいじ

やないか、相手を小さくするライトを使えばいいじゃないか、そもそもタイムマシンで5分前に戻れば、このピンチは避けられるぞって。いらいらしてくる。なんでもできるのに、わざわざ漫画になるためになんにもしていない気がするんだ。

鹿田 課長、牛山課長

牛山 大体さ、ドラえもんはあんなになんだってできるのに、のびたくんのことしか考えてないじゃないか。自分の能力とか道具を社会をよくすることとか、世界を変革することに何も生かしていないよね。それってどうなんだ。おかしくないか。もったいなく、

鹿田 課長、牛山課長。今はこの人（バナを示し）を難民として認定し、わが国で保護するかどうかについて話し合っているところです。課長のご家庭の週末の過ごし方については、話し合っていないません。

牛山 君はこう思っているだろう。私がこの場には無関係なことを急に言い出したと。思うでしょ。

鹿田 私と言いたいのは、魔法使いにも限界があるということだよ。サリーちゃんは子ども。ハリー・ポッターは修行中。なんでもできるわけじゃない。

鹿田 ますます無関係なことを言い出していると感じますが。牛山 あなたは（バナに）国では魔法使いと呼ばれていた。

そうですね。

バナ シャーリア。

それは。

牛山 普通の人が、できないことをできる人。そういう意味だね。

バナ つまり、なんでもできるのか。

牛山 そんなことはない。

牛山 わが国があなたを受け入れるとして、あなたが何をでき、何をできないか、そ

れを知っておくことが必要だ。日本人は魔法使いを嫌いなわけじゃない。ドラ
えもんも一種の魔法使いだ。日本人はむしろ好きだよ。ほかにもハリー・ポッ
ターとか、トトロとか、崖の上のポニョ。だがその魔法の中身によっては日本
人が受け入れられないものかもしれない。その力を何に使うのかも重要だ。世
の中を変えるのか。のびたくんのためだけに使うのか。

のびたくん、意味分らない。

アフリカ人の80%は知らないと思います。

教えてほしい、何をでき、何をできないか。正しい答えがほしい。私たちはそ
れを聞いて判断したいんだ。

(間) シャーリーアには役割がある。ある者は土をつかさどる。ある者は風。
ある者は炎。ある者はイナゴの群れ。

あなたは。

水。

水？

水だ、ウオーター。

水をつかさどるシャーリーアなんだな。水を操れるんだな。

シャーリーアはなんでもできるわけではない。できるのはわずかなことだ。

何ができる。教えてくれ。

私ができるのは、流れを変えることだけだ。

流れを変えるって？

東に流れているものを南に、早く流れているものを遅く、少ししか流れていな
いものをたくさん。そういうことだ。

ばかばかしい。

面白い。

鹿田 え？

牛山 そうすると早ばつのときに役立つわけだね。あなたの能力は。

バナ 小規模な早ばつなら。

牛山 というと？

バナ 人の力を超えたどんな力も限定的なのだ。私は流れを変えられるだけ。流れていないものを流れるようにすることはできない。枯れてしまった井戸から水を出すことはできない。

牛山 ひとつ聞きたい。津波はどうですか。

バナ 起きてしまった津波をなかったことにできるか？災害時に私の能力が使えるのか、と聞くのか。

牛山 できるかね。

バナ 不可能だ。津波を止めることはできない。起きていない津波を起こすこともできない。できるのは

牛山 できるのは

バナ ここに向かっている津波を隣のまちへ。

牛山 それはできるのか。

鹿田 課長。

バナ やったことはない。だが、できるかも。

牛山 難民認定の方向で調整しよう。

バナ 本当か。感無量だ。

鹿田 課長。

(バナに) その代わり、日本政府があなたに頼み事をするかもしれない。そのときは聞いてくれ。

バナ この国に住まわせてくれるんなら、喜んで協力するよ。

牛山 ひとつ確認したい。
バナ 何？

牛山 なぜあなたは国で「殺し屋」と呼ばれていたのかね。

バナ 根も葉もないうわさを立てるやつがいるのさ。

牛山 信じていいね。

バナ もちろんさ。バナさんは親切な人。人を死なせることにはけっして手を染めた
くない。本当だ。

バナ、牛山と握手して退場。

鹿田 課長、牛山課長。
牛山 なんだ。

鹿田 バナさんは、現在の法解釈では難民の認定基準を充たしていないと考えられ
ます。
牛山 だからなんだ。

鹿田 そんなに安易に難民として受け入れていいものでしょうか。

牛山 君は外務省入省のときから、難民問題の担当を希望していたそうだね。

鹿田 そうです。

牛山 珍しいね。何か特別な経験でも？

鹿田 高校の同級生にカンボジア難民がいました。

牛山 そうか。難民たちの苦難を知り、自分は彼らのために役に立ちたいと、そう
いうことか。
鹿田 そこまで単純ではありませんが。

牛山 国益というものがあるんだよ。鹿田君。私たち国家公務員が考えるべきこと

はまず、国益だ。

鹿田 それは分かりませんが、あの人は。

牛山 役に立つかもしれない。南海トラフ巨大地震を知っているね。

鹿田 150年に1度、日本に大きな被害をもたらす、地震だけでなく津波も脅威です。まさか。

牛山 東京に津波が来ると、日本の政治経済は一気に破たんする。大混乱だ。そうした事態を避けるのはまさに国益だ。

鹿田 あの人は津波を止めることはできないと。

牛山 止めなくてもいいんだよ。千葉あたりにちよいと行き先を変えてもらえば、首都圏直撃よりはずっといい。そうは思わないか。

鹿田 賛成できません。

牛山 なぜだ。

鹿田 千葉県には妻の実家が。

牛山 じゃ、神奈川でも茨城でもいいさ。そのとき考えよう。さ、もう5時だ。(ネクタイを外す) 私は六本木に繰り出すが、付き合うかね。

鹿田 (ネクタイを外しながら) いえ、私は10年前に。

牛山 そうか。ここからは個人の時間だ。私は踊るが。

鹿田 私は野球を。

牛山 好きにしたまえ。野球は人類の素晴らしい発明だが、踊りは神から人類への素晴らしいプレゼントだよ。

牛山、退場。鹿田はユニホーム姿の18歳の鹿田に。蝉の声。

第3場 あまりにも多くの人がベンチに

サラ、登場。高校の制服姿。

サラ

タカシ、I SEARCH YOU. YOU ARE CRYING. YET?

鹿田

NO. I ONLY PASS THE TIME HERE. I HAVE

NO TEARS FOR THE GAME. YOU KNOW THE

BAD GAME. THEY DEFEATED US

牛山

鹿田君。鹿田君。

鹿田

はい。課長なんでここに。

牛山

日本語でやりたまえ。日本語で。私の見るところお客さんの85%が、無理な

感じだ。

鹿田

分かりました。

サラ

タカシ、探したよ。ずっとここで泣いていたのか。

鹿田

ぼーっとしてただけだよ。14対0で負けじゃ、涙も出ないさ。ひどい試合。見てただろ。

サラ

私野球見るの、初めてね。みんなここで歌うし、踊るし、楽器も鳴らすし。お

祭りみたい。すごいね。思ってるうちに、終わった。井上君が前のめりに倒れて、

泥だらけになって。みんなが「ああ」って。女の子は「わあ」って泣くし。負

けたのは井上君が悪いのか。

鹿田

あれはヘッドスライディングって言うんだ。いのっちは最後のバッターだった

だけで、別に悪いんじゃないんだよ。おれを探してたの？

サラ

私、タカシに言おうと思った。いつも野球で忙しそうで言えなかった。「あり

がとう」と「さようなら」ね。

鹿田

そうか。アメリカに帰るんだ。

サラ 向こうの新学期、来月だから。

鹿田 そうか。でもなんでおれに。

サラ タカシはいつも私に親切だった。他の男の子はみんななんか私との間に壁を作るんだ。タカシはそうじゃなかった。私、「ガイジン」じゃないみたいに話した。

鹿田 英語、好きなんだ。

サラ きょう、カッコよかったよ。

鹿田 え？

サラ 日本人の女の子みたいに「カッコイイ」って大声で言いたかった。タカシはすごく一生懸命ボールを投げてたし。あんなに速いボールを投げて、誰にも打たれていないのに、負けるなんて。

鹿田 サラ、野球を知らないんだ。アメリカ人なのに。

サラ アメリカで生まれたんじゃないから。アメリカ人になったのは、わたしが10歳のとき。

鹿田 サラが気付かなかったことがあるんだよ。おれは、試合に出てないんだ。

サラ どういうこと？

鹿田 投げてたのは、ブルペンで投げてたんだ。投球練習っていうんだ。試合とは関係ないんだよ。おれは結局、1回も試合に出してもらえなかった。打たれたピッチャーの代わりにおれが投げて、もっと打たれるから。きょうはずっとつらかった。仲間が目の前でつらい思いをしているのに、おれは何の役にも立たない。じゃあおれは何のためにここにいるんだ。サラ。分かるか。こんな思いをしたことがあるか？ベンチにただ座ってるだけで、何もできない。存在に意味が無い。そう思えてくること。あんたの人生に、そういうこと、あったか？

サラ あるよ。私にもあるよ。座ってるだけで、何もできなくて、つらかったこと。

タカシ サラ。

サラ

私がアメリカ人になったのは、私の国が戦争になったから。同じ国の人間同士で、同じ国の中で、銃で撃ち合った。殺しあったの。知ってるでしょ？何も悪いことをしていないのに、殺された人がたくさんいたね。私5歳のとき。私の家族全員、殺されそうになったの。私たちは隠れた。河の中に。私はここまで（鼻と口の間を手で示す）水に入った。遠くで村の家々が燃やされてオレンジ色の炎が広がるのが見えた。私のうち、となりのうち、そのとなりのうち。燃えてた。オレンジの火と煙が、すべてをのみこんでた。村を出る前に家族のひとりがかまってしまった。わたしのおじさん。おとうさんの弟で、学校の音楽の先生だった。いつも笑ってた。しよっちゅう歌ってるから、ニックネームは、「オルゴール」。何人もの人が撃たれた。悲鳴が聞こえた。河にほうりこまれた。水が「がしゃん」と鳴って、顔の前を血だらけの人が流れていった。何人も、何人も。おじさんが男たちにつかまって、地面に座らされるのが見えた。おとうさんが河の中で私を抱いて、目と口をふさいだ。見せないように。でもおとうさんの手はがたがた震えていて、見えたの。おじさんの様子が。

村じゅうの家に火が燃えうつつっていたの。水の中の私たちが汗をかくほどの熱さ。明るくなってる、すごくよく見えた。おじさんは男たちにけん銃を突きつけられていた。いつも笑顔なのに、怯えて真っ青になっていた。取り囲んでいる男たちのだれかがわたしたちの家族がどこに行っただか、尋ねた。おじさんの声は聞こえなかった。聞こえたのは拳銃の音。おじさんはまず足を撃たれた。悲鳴が聞こえた。誰かがしゃべれと怒鳴った。おじさんは、しゃべらなかつた。（間）歌ったの。私の国の古い歌だと思う。よく聞こえなかつたけど、歌ったってことは分かった。どういう気持ちだったか、分からない。でもたしかに、おじさんは歌った。両手をこうやって（頭のうしろで手を組む）組まされて、地面に伏せながら、地面に向けて歌った。だれかがまた撃った。おじさんの頭が割れて血が噴き

出すのが見えた。撃った男は、まだ少年のように見えた。倒れたおじさんをまたいでこっちに走ってきて、草の上に、げえって吐いた。おじさんは前のめりに倒れた。さっきの井上君みたいに。砂煙が立つのが見えた。

私は悔しかった。なんとかしたかったの。大好きなおじさんを助けたかったのに、できなかつた。座っているしかなかったの。飛び出して行って、やめてって大声で言いたかった。殺されてしまうかもしれないからできなかつた。何もできなかったの。タカシ、世界中にベンチがある。いっぱいある。そこにたくさんの人が座っている。たくさん、たくさん、たくさんの人が。痛い心と冷たくなる胸。炎に包まれる、愛する場所。目の前で、起きている信じられないこと。飛び出して行って、なんとかしたい。でも私たちのように、何もできないで、座っている。動きたくても、動けないで。もう行かなくちや。

鹿田

オルゴール。

サラ

おじさんのあだな。

鹿田

おれも子どものころ、あだ名オルゴールだったよ。

サラ

オルゴール？タカシが？いつも歌ってたのか。

鹿田

ビールケースの上でね。

サラ

いつから歌わなくなった。

鹿田

子どもじゃなくなった時。

サラ

今でも大人じゃないよ。野球ばかりやってるじゃないか。

鹿田

それも終わりだ。きょうで最後だよ。

サラ、立ち止まり、目を見開き、前方を見つめる。

サラ

ウオーター！

あれは何か。野球のルールと何か関係があるのか。

鹿田 スプリングラーでグラウンドに水をまいているんだよ。乾燥しすぎないように。

サラ 世界って、美しいな。

鹿田 え？

サラ 世界って、美しい。タカシはそう思わないか？

鹿田 そうは思わない。でもいつか、そう思えたら、うれしいかもしれない。

蝉の声。

朗読者たちが現れて、並ぶ。国連のインターンシップで知り合った各国の大学生たちである。

鹿田、サラは退場。

第4場 バッターズ1

朗読者1 2013年度CIAファイル、重要度F、リスク判定D、キーワード・緊

急事態、シリア、ジャパニーズヤクザ、バッターズ、南から来るもの

朗読者2 フェイスブックで呼びかける

朗読者3 それが正しいか不明

朗読者2 でも呼びかける

朗読者3 サラ・ジョンソンが危険。

朗読者2 緊急事態

朗読者4 誰

朗読者2 国連のインターンシップ

朗読者3 私たちを指導

- 朗読者 2 人気者のサラ
- 朗読者 5 サラ・ジョンソン
- 朗読者 3 アジア系米国人
- 朗読者 6 今アフリカのどこかにいる。
- 朗読者 2 サラはシリアにいる。
- 朗読者 3 停戦協定を担当。
- 朗読者 4 危険。
- 朗読者 3 シリアの混乱状態について
- 朗読者 2 何か情報は？
- 朗読者 6 大変な混乱。
- 朗読者 1 化学兵器
- 朗読者 5 ジャーナリストの殺害。
- 朗読者 4 文化財の修復できないほどの破壊。
- 朗読者 3 国連スタッフにまで危害が及ぶ状況？
- 朗読者 4 その通り、大変危険。
- 朗読者 1 大量破壊兵器は実はイラクにはなかった。
- 朗読者 3 でも、私たちにできることが何かあるだろうか。
- 朗読者 1 アメリカにはあったけど。
- 朗読者 2 当面はないわ。
- 朗読者 3 でも、情報を集めましょう。
- 朗読者 2 できることがあるかもしれない。
- 朗読者 5 ユリの呼び掛けに応えよう。
- 朗読者 6 われわれはそれぞれ別の国に
- 朗読者 1 多様な場所に、多様な情報

朗読者 4
朗読者 1
朗読者 5
朗読者 1
朗読者 6
朗読者 2
朗読者 3
朗読者 2
朗読者 3
朗読者 1
朗読者 3
朗読者 1
朗読者 3
朗読者 6
朗読者 5
朗読者 4
朗読者 2
朗読者 3
朗読者 2
朗読者 6
朗読者 1
朗読者 5
朗読者 2
朗読者 3
朗読者 6
朗読者 4

多様な情報が、役立つ。
おそらく中には不要な情報も。
デマ、不確実なうわさ
流言飛語のたぐい
今はサラのために
無事を祈り、情報を集めよう。
国連のインターンシップからずいぶんたつけど
みんな元気だった。
元気。
国連に戻りたいよ。スウェーデンは退屈。
おれも戻りたい。インドネシアは暑い。
世界中で人々が感じてる暑さ。それには原因がある。
ユリ、日本は大丈夫なの。
日本についての情報
ドイツにもフクシマのことは断片的に伝わっているわ。
今は、すぐにニュースが伝わる
汚染水が漏れ出していると。
ありがとう。今は見守るしかないの。
日本人はフクシマでよくやっているよ。
私の国では必ずしもそうは評価されていないわ。
事故を起こした以上、厳しい評価は当然だと思っ
だがフクシマ第一原発が火災を起こした時
日本人の消防士たちは近づいて、放水したんだぜ。
サムライ。

朗読者 6 そんなことをする責任はないのに。

朗読者 3 世界中で、あのととき、みんながフクシマを見つめて心の中で叫んでいた。

朗読者 5 早く温度を下げなければ

朗読者 1 早く冷やさなければ大変なことになる。

朗読者 2 お願いだから早く水を。

朗読者 4 ウォーター

朗読者 1 それは人を三重苦から解放する言葉

朗読者 6 ユリ、とにかくおれは日本人を応援しているよ。

朗読者 2 ありがとう。

朗読者 3 ユリ、まだジャパニーズヤクザと交際しているの？

朗読者 1、4、5、6 早くやめなよ。

朗読者 2 ありがとう。でも、彼はきつと立ち直るの。私は信じてる。

朗読者 1、3、4、5、6 だまされてる。

朗読者 3 だって、他の女ともつきあってるんでしょ。

朗読者 1、4、5、6 だまされてる。

朗読者 2 なんか、全大陸の女性とつきあうことを目指しているんだって。

朗読者 1 南極が無理

朗読者 3 南極が無理。

朗読者 4 南極が無理

朗読者 5 南極が無理

朗読者 6 ユリ、よく考えるんだ。いつでもおれがジャカルタから、駆けつけるから。

朗読者 1、3、4、5 こいつもだまそうとしてる。

朗読者 4 シリア、フクシマより大きな危険。近づいてる。

朗読者 1 流言飛語のたぐい

朗読者 4

そういううわさを耳にしていなにか？

朗読者 3

何を言い出すの？ダン。根拠のあるうわさ？

朗読者 1

流言飛語のたぐい

朗読者 4

分からない。ただ、大きな危険だと。ネット上で広がっている。

朗読者 1

ネット上で広がる情報には、それ自体の危険も

朗読者 5

戦争や原発事故より危険？なんだ？

朗読者 4

分からない。ただ、南から来るものだと。

朗読者 1

バッターズでさえ、それをヒットできない。

朗読者 4

そういう言葉だけが拡散している。

朗読者 1

野球は人類の素晴らしい発明だ。

朗読者 2

バッターズでさえ、ヒットできない？何それ。

朗読者 3

ヨーロッパの人間に野球の話をしないで。

朗読者 6

メジャーリーグの投手なら、そこまで危険じゃないよ。せいぜい、乱闘だ。

朗読者 1

野球をしている時、人は笑顔。

朗読者 6

人類の偉大なる発明

朗読者 3

人類は滅びない。そんなに簡単には。

朗読者 2

バッターズでさえヒットできない。南から来るもの。

朗読者 1、

3、4、5、6 不安。なんだか分からない不安。

朗読者 2

世界を包む不安。

朗読者 1、

3、4、5、6 なんだか分からない不安。

朗読者 2

このときはまだ、そうだったのです。

第5場 そのバックネットのバランス2

馬場 なんの罰ゲームやねん。なんの罰ゲームやねん。こんなところで、熊とにらめっ

こって。どうやねん。

八木 こういうの、疲れますね。

馬場 落ちんなよ。

八木 先輩こそ。

馬場 くそ、誰か野球やりにこうへんかな。

八木 それは無理でしょう。ここ、野球場っていうより、廃墟や。長いことだれも野

球やっでないでしょう。

馬場 くそ田舎が。

八木 先輩。

馬場 なんや？

八木 地上げって、都会でやる仕事やと思ってきました。

馬場 20世紀はそうやったんやろな。おれらの先輩が食い荒らして、都会にはもう

地上げする場所がな

八木 ないんすか。

馬場 あるけどな。少ないんや。それをいろんなやくざとか、外国人が奪い合ってる

んや。これからは、田舎にこなあかんのや。

八木 田舎は、もういいです。こんなリスクが

馬場 やくざがリスクを恐れてどうすんねん。リスクがあるところに、リターンもあるんや。

八木 先輩、PWって何ですか。

馬場 どこで聞いた。

八木 事務所先輩がボスに耳打ちしてるのが聞こえました。PW、八木と小林連れ

て、とってきますわって。

馬場 おまえ耳いいな。
八木 それほども。
馬場 PWはな。略語や。
八木 それは分かります。ペナルティキックが、PKみたいなもんですよね。
馬場 なんでも言ってみ。当てたら、教えたる。
八木 分かりませんよ。パイナップル・ワイン。
馬場 まずそうやな。
八木 ピンク・ウーマン。
馬場 やらしそうやな。
八木 パートタイム・ウインド
馬場 涼しそうやな。
八木 ポケット・ワンダーランド。
馬場 小さそうやな。
八木 パルプ・ワイヤー
馬場 軽そうやな。
八木 ピース・オア・ウオー
馬場 ピースの方がええな。
八木 無理です。
馬場 パーフェクト・ウォーターや。
八木 何ですか？
馬場 完全な水やな。水もいろんな成分を含んでな。場所によって違うねん。硬水
八木 とか軟水とか聞いた事あるやろ。
馬場 完全な成分の水が、こんな山の中にあるんですか。
馬場 世界一らしいわ。

八木

世界一？

馬場

それを使えば、ロケットや人工衛星が一番故障無く飛ぶらしいで。人が飲んで
も身体にええらしいわ。この山の上に、それがわき出ている洞窟があつてな。

八木

はい。

馬場

竜が棲むという伝説があつてな。地元の人も近づかへんらしいわ。

八木

竜が？

馬場

おるわけないわな。熊はおるけどな。

八木

その洞窟のある場所を地上げするんですか。

馬場

持ち主はまだその値打ちに気づいてへんわな。しかもこのあたり、過疎や。み
んな村捨てて出て行くばかりや。

八木

せっかく作った野球場も熊の巣になつてくるくらいですからね。

馬場

どや、いい仕事やろ。

八木

ええですねえ。もうかりそうっすね。

馬場

そやから！こんなとこにいるわけにはいかんや。

八木

熊さえいなければね。

馬場

こんなんしてたら、あいつらが先に着いてしまうやなか。

八木

あいつら。

馬場

チャイニーズのやつらがな。

八木

あいつらですか。チャイニーズ・マフィアがこんなところにも手を伸ばしとん
のですか。

馬場

そや。あいつらに負けるわけにはいかんや。くそ。熊はよどつかいかんかな。

八木

まだ行く気配ないっすね。

馬場

いずれは寝るんやろ。熊も。

八木

絵本では、ベッドで寝てました。

馬場

絵本と現実の違い。

八木

ま、そうでしようが。

馬場

映画の話せえや。

八木

さっきの「水と魚と人をのろう女」の続きでいいんですか。

馬場

ええよ。そのアフリカの女がどんなことするんや。

八木

そんな大したことしないんですけどね、とりあえず占いの店を開くんですわ。

馬場

占いの店。

八木

そこに日本人の女が相談に来るんですわ。これがとんでもない女でね。

バナ登場。バナの占いの部屋である。

2人に羽が生えてくる。

馬場

わ、また生えてきたで。

八木

飛びましょ、今度は飛びましょ。

馬場

映画の話を続けえ。面白く話せよ。

八木

そうすると飛べるんすか。飛べるんすか。

第6場

水と魚と人をのろう女2 スプリングラー

啓子登場。荒れた生活を思わせる派手な服装と態度の若い女。

バナ

ようこそ 「占いの館」へ。

啓子

もうかかってるみたいね。

バナ

自分で言うのも変だけどね。占いが当たると評判ね。

啓子 うそでしょ。裏の仕事の方が評判なんじゃないの。
バナさんは正直者ね。裏の仕事なんてないね。変なこと言うね。
啓子 これまで、どのくらい呪い殺したのさ。
バナ 大きな声、ダメね！
啓子 なによ。
バナ 人に聞かれたら大変ね。
啓子 いいじゃん。
バナ 秘密の仕事ね。
啓子 いいじゃん。呪いで誰かが死んでも、あんたを逮捕できないでしょ。
バナ 誰を
啓子 え？
バナ 誰を呪い殺してほしいね？自分をだまして捨てた男？
啓子 そうじゃないよ。
バナ 許せないキャバクラの先輩か？
啓子 キャバ嬢じゃねえよ。
バナ ちがうのか。
啓子 あたしが働いているのはガールズバーっていうんだ。キャバクラじゃない。
バナ どっちもアフリカにはないから、あたしには区別つかないね。
啓子 アフリカには何もないよね、
バナ 最古の人類の骨は、アフリカで発見されたんだよ。人類という泉はアフリカで
わき出しているね。馬鹿にしたもんでもないよ。
啓子 いくらで頼めるの。
バナ 何を。
啓子 いくらで、殺してくれるのよ。

バナ 誰を殺すかによるね。

啓子 何それ。あんたここで呪いをかけるんでしょ。遠くからライフルで狙う訳じゃない。相手が誰だろうが、同じでしょうが。均一料金にしろよ。

バナ あたしは自動販売機じゃないね。

啓子 あんたが自動販売機だなんて言っていないよ。

バナ 100円入れたらコーラが出てくるとか、そういうもんじゃないね。人を呪うには、それなりに、裏切られた恨みとか、理不尽さへの怒りとか、いいかい、そういうものがあるでしょうが。そういうものがあるって、初めて人を呪うことができるね。

啓子 めんどくさいね。

バナ 誰を殺そうとしているか。

啓子 これ、写真。

バナ かわいいね。

啓子 私に似てるのよね。

バナ あなたの子どもね？

啓子 (うなずいて) 4歳。

バナ 三輪車に乗ってる。

啓子 今は自転車。

バナ かわいいねえ。このくらいの子どもが一番かわいいっていうね。

啓子 名前、流羅っていうんだ。

バナ 日本人じゃないみたいだな名前だ。それで、誰を？

啓子 こいつ。

バナ どういうことね？

啓子 そういうことよ。こいつをやってほしいんだけど、

バナ ちよっと待って。これはあなたの子どもね。

啓子 そうよ。

バナ あなたが産んだ？

啓子 そう。

バナ なんで殺す。

啓子 面倒くさくてさ。

バナ それで？

啓子 リセット。

バナ 何考えてるのさ。

啓子 顔かわいいけどさ。ろくなものにならないよ、こいつ。まだ小さいのに、うそばかりつくし。歯は磨いたの？て聞くと、磨いたよ、って。そういうときだけかわいい声で。でも歯ブラシはぬれてないし。きょう、じゅんちゃんに泣かされた、ってかわいい声で言うから、じゅんちゃんのママに文句言ったら、逆よ、りゅうちゃんがいろんな子ども顔をたたいて、腕とか足をつねって。みんなのミルクに「こうせいしんやくだぞー」って言いながら、泥を入れて回ってクラス全員を泣かせたりとか。

バナ あきれたね。

啓子 あんたは金さえ出せば、人を呪い殺すってね。

バナ 西アフリカの村にはバラ克蘭ジャンの伝説があるね。バラは水、克蘭ジャンは鳥。白い、水辺に飛んでくる鳥。赤ちゃんは、その鳥が運んでくると言われているの。

啓子 日本でもコウノトリがどうかいうよね。

バナ 村では、子どもが生まれるとみんなでバラ克蘭ジャンの歌を歌ってお祝いするね。みんなでヤギを殺して、肉を食べて、掛け合いで歌って、そして踊って、

水鳥に感謝するのさ。子どもは、神様が水鳥に託して、村に授けた、そう、村の宝物。

啓子

あたしは大きな家で育ったんだ。生まれた家は大きくて、広い庭があって、芝生があった。そこで転げ回って遊んだんだ。世間からは、いい家のお嬢さんだと思われてた。でもあたしの母はひどくてね。気持ち悪いほど優しいこともあるけど、急にぶち切れて、ひどい殴り方をするんだ。それも手じゃないよ、物だよ。すりこぎとか、胡椒引きとか、おろしがねで殴られたときは血だらけになったよ。なんだったんだろ。何か得体の知れないものにとりつかれて、怒りの発作が来て、そうすると、わけわかんなくなるんだ。ああはなりたくないよな、と、小さいころはよく思ってた。でもさ、このままだと、あいつと同じになりそうなのさ。あたしがひどいことをする前に、あんたがやってほしいのさ。

バナ

どうかね。ろくでなしになるかどうか、見てみようか。

啓子

は？

バナ

それからでも遅くはないね。その、歯磨きしない、うそつき坊主が、あなたくらいになった時、どんな人間になっているか、見てからでも、遅くはないね。

啓子

何を言っているの？

バナ

流れを速めて、24歳の彼を見るね。

啓子

なにいつてんのさ

少し暗くなった部屋に、男たちがどやどやと入ってくる。シユウと小林が24歳になった流羅を抱え、地面に投げつける。そのまま2人がかりでけりつける。彼は両手を後ろ手に縛られている。チャンは下手のやや離れた位置に立ち、馬場（20歳年を取っている）はバナと啓子の近くに立つ。

バナ どいつが流羅ってやつかね。

馬場 あのボコボコにされとんのが、そうや。

バナ なにをやらかしたんだい。

馬場 ヤクの横流しや。

チャン (流羅の前にかがみ) SAY HONESTLY, WHERE ARE

DRUGS?

シユウ (この男の役割は通訳である) 正直に言え、ヤクはどこだ。

チャン YOU BOUGHT ALL DRUGS TO ANOTHER NE

TWORK?

シユウ ヤクを全部流しちまったのか?別の組織がからんでんのかよ。

流羅、意識がもうろうとしているらしく、答えられる状態にない。

バナ この様子じゃ、自分で使っちゃったんじゃないか?

馬場 それやったら、こいつ助からへんな。ま、どっちにしても無理やろうけどな。

チャン ANSWER ME!

シユウ 答えろ。

流羅、薬が効いているのか、ニヤリと笑う。

小林 このやろう。

啓子 なんで横流しなんか。

馬場 横流しってのは、蛇みたいなものや。スプーン一杯ちよいかき出して、売っ

て遊び金にするなんてのは、みんなやってるわな。そやけどな、そこにしがらみがからみつく、女がからみつく、金がからみつく。鎖みたいになって、長くなっ
ていって、重くなっていって、体に巻き付いてくる。そしてそれが、南米の大き
な蛇やと気がついた時は遅いねん。そこにシャアア。口と牙があるねん。

このせりふの間にも、小林が激しく流羅を痛めつける。

チャン YOU TALK WITH SOMEONE?

シユウ 誰かとしやべってるのか。

馬場 独り言や。気にすんな。

シユウ HE SAID HIMSELF. HE SAID YOU 「DON'T MI
ND」

バナ あんたたち、何かね。外国のマフィアの使い走りかね。

馬場 2014年に戻ったらみんなに言ってちょうだい。国際化への対応の遅れが、

こういう事態を招くんや。

小林 だめだ。こいつ、しゃべりやしねえ。

チャン CUT HIS FINGERS

男たちはぎよっとする。

チャン CUT HIS FINGERS YOUR TRADITIONAL CUL
TURE

シユウ 指を切るのはおまえらの、伝統文化だろう。

馬場 しゃあない。(小林に) やれ。

小林　　しゃべらねえとおまえ、自分でヤクを打つこともできなくなるぜ。

流羅の口が「しゃべる」と動く。

馬場　　しゃべるって、言ってる。

シユウ　　H E W A N T S T O S P E A K
チャン　　O K

流羅　　夏の光だ。

シユウ　　S U M M E R L I G H T S !

流羅　　空から降り注ぐ、驚くような明るさ。広がる緑。おれは両手を広げる。翼があ

るみたい。スプリンクラーが大きな音を立てて、水を四方八方に放つ。水がおれの周りにいくつも光の壁を作る。光の壁、光の壁、光の壁。水の回転、水の回転、水の回転。顔を冷たい光の束がたく。母さんが走ってくる。おれを抱き上げ、顔の高さに持ち上げる。ずぶぬれになりながら、おれをぐるぐると回す。空の回転、空の回転、空の回転。はじけだす。はじけとぶ。跳ね返る。無数の水滴。輝きの壁。輝きの壁。輝きの壁。母さんは笑っている。幸せそうに。母さんが水をかぶる。次はおれ。次は母さん。次はおれ。幸せに包まれる。ああ、夢のようだ。芝生のおい。小さな虹。スプリンクラーの音。輝きの壁。母さん。

小林　　ヤクで頭がいかれちまってんだな。聞き出すのは無理だよ。

馬場　　そうやな。

シユウ　　D R U G S B R E A K H I S B R A I N , A B S O L U T E L Y

チャン、ナイフを取り出し、いきなり流羅を刺す。

流羅 助けて、母さん

流羅は倒れ、死ぬ。啓子は悲鳴を上げる表情をするが、声は出ない。チャン振り返り、バナと啓子に初めて気づき、恐怖の表情を浮かべる。

チャン WHO? WHO ARE YOU?

馬場 2人とも、過去から来た幽霊や。日本ではよう歩き回ってんねん。

シユウ (この男には2人は見えていないので、わけがわからないままに訳す) THE

Y ARE GHOSTS FROM PASSED TIME, THEY W
ALK AROUND IN JAPAN.

馬場 これも日本の伝統文化ってやつや。

シユウ ITS JAPANESE TRADITIONAL CULTURE T
OO.

馬場 人殺しには見えてまうんやな。幽霊ってやつはなあ。

シユウ KILLERS MUST SEE GHOSTS EVERY NIGH
T

チャン、取り乱した様子で、走り去る。

馬場 おい、こいつを車に運べ。

小林、シユウは流羅をかっぎあげる。

小林 リユウのやつも気の毒したな。

シユウ 残念だ。

小林 最低のヤク中で、うそつきの役立たずだったけど、面白いやつだった。

シユウ ものまねがうまかった。

小林 そうだな。こいつ、バイニンじゃなくて、芸人になればよかったんだよ。

馬場 くだらねえこと言ってねえで、さっさと運びな。

小林とシユウ、流羅の遺体をかっいで退場。馬場、立ち去りかけるが、立ち止まり、振り返る。

馬場 ねえさん、2014年に帰ったら、あのころのおれを見つけて、言ってやって

くれへんかな。やけ起こさんと、ちゃんと調理師免許とって、トコハ村に帰って、イノシシ料理の店・・・やっぱり、やめとこ。忘れて。

バナ あたしはどっちでも。

馬場 ありがとう。ねえさん、また会おうな。

馬場、退場。

バナ 悪いもの見たね。(短い間)でも、よかったよね、最後に思い出してくれたじゃない。

啓子 あれはあたしじゃない。

バナ え？

啓子 あれはあの子の思い出しじゃない。あたしはあの子にあんなことをしてない。あの子は生まれたときからマンション暮らし。芝生なんてない。

バナ じゃ、なんでかね。

啓子

あれはあたしの思い出だ。一番しあわせな思い出。母が優しかったころ。庭の芝生で、抱きしめられて。スプリングラーの水に包まれて。あれはあたしと母さんだ。あたしとあの子じゃない。なんで？

バナ

さあ、わかんないね。でもあたしの村では、言うね。人の血の中には渦巻きがあるんだと。

恵子

血の中に渦巻き？

バナ

神様は水と同じように人の血を作ったんじゃない。血の中に渦巻きを作った。渦巻きは、それ自体が考えを持っている。この人間を、どう動かし、何をさせるか。何をさせれば、世界中の水が、樹が、砂が、炎が、イナゴの群れが、正しい働きをするか。この人間はそういうことのためにどう役に立つか。

啓子

わかんないよ。

バナ

あんたの血の中の渦巻きは、今、行き先を見失っているのさ。子どもが死ねば、渦巻きは、もうどこへも行けない。子どもが生きれば、未来に果てしなく広い海が広がっている。でも、自分の行き先が分からなくなった渦巻きは、わけのわからないことをしようとするね。そういう時はじっと見るのさ。水か、樹か、砂か、炎か、イナゴの群れを。あんたの血の中の渦巻きが落ち着いて、どこに進むか、行き先を見つけるんだよ。

啓子

バナさん。わかんないよ。

バナ

水を見な。(水を見せる)

啓子

バナさん。

バナ

何。

啓子

あたし、やめとくわ。

バナ

なにを。

啓子

あの子殺すの、やめる。

バナ (驚く) そうかね。(喜ぶ) それがいいね。

啓子 バナさん、未来って変えられないの。必ず、ああなるの？

バナ あたしにはわからないね。(短い間) でも変えられると、いいね。

啓子、立ち上がる。

啓子 ごめん、行くわ。保育所に迎えに行く時間だ。

バナ お茶のまんかね。

啓子 今度また来る。

啓子、退場。バナ、見送る。朗読者たち6人が入ってくる。バナは6人に言う。

バナ 日本人で、変ね。本当に変だね (退場)。

第7場 バッターズ2

朗読者 1 2014年度CIAファイル、重要度F、リスク判定F、キーワード・南

から来るもの

朗読者 2 彗星の話は聞いた？

朗読者 3 日本ではどんな情報が？

朗読者 5 インドネシアでは何の情報もないんだ。

朗読者 6 どの政府もこの事態を明らかにしてない

朗読者 1 公式には、けっして

朗読者 5 それはなぜ。

朗読者 4
すべてはネット上のうわさ。

朗読者 2
南から来る彗星について

朗読者 6
情報が飛び交っている

朗読者 1
ミサイルで撃ち落せるという人も

朗読者 5、
無理だと言う人も。

朗読者 3
ダン、可能性は？

朗読者 4
ゼロ。

朗読者 1、
2、3、5、6 あー。

朗読者 3
ああ、早く発見できていれば。

朗読者 2
せめてあとひと月。

朗読者 4
後悔先に立たず。

朗読者 3
ニュージールランドの観測地点が閉鎖されていたの。

朗読者 1
予算不足で

朗読者 5
南半球には観測地点がひとつも無かった。

朗読者 4
日本の観測チームが発見できなかった。

朗読者 6
バッターズがそれをヒットできなかった。

朗読者 2
バッターズ。日本の観測チームね。

朗読者 5
彼らにも予算がなかった。

朗読者 1
宇宙を見張る予算は、どこの国も十分じゃない。

朗読者 3
リーマンショック

朗読者 4
フクシマ

朗読者 5
お互いの国を責めるのはやめて、各国のミサイルに希望を託そう。あきらめるのは早い。

朗読者 3
インドのミサイル、失敗。

- 朗読者 6 中国のミサイル、失敗。
朗読者 3 フランスのミサイル、失敗。
朗読者 2 イギリスのミサイル、失敗。
朗読者 6 北朝鮮のミサイル、成功と発表。
朗読者 1 偉大なる指導者によって、世界は救われた、と放送した。
朗読者 4 話にならない。
朗読者 3 ロシアのミサイル、失敗。
朗読者 2 日本のミサイル、失敗。
朗読者 4 アメリカのミサイル。失敗。
朗読者 5 もうだめだ。
朗読者 6 どの国もあれを撃ち落とせない。
朗読者 5 バッターズも、誰も、あれをヒットできない。
朗読者 3 危機感はまだ、世界中で高まっている。
朗読者 4 いずれはなんとかなる、と。
朗読者 1 奇妙な楽観視
朗読者 6 人々は普通に行動している。
朗読者 2 会社に行き、
朗読者 3 図書館で本を読んでいる。
朗読者 6 ストックホルムでも。
朗読者 5 ジャカルタでも。
朗読者 1 ニューヨークでも
朗読者 3 ベルリンでも
朗読者 6 カイロでも、リオデジャネイロでも
朗読者 2 大阪でも。なぜなの。

- 朗読者 4 危険度について正確に発表されてないから。
朗読者 6 すべてはネット上のうわさ。
朗読者 2 なぜなの
朗読者 1 パニックを防ぐため？
朗読者 3 きっとそうよ。
朗読者 2 パニックって、そんなに怖いこと？
朗読者 4 政府にとってはね。
朗読者 2 正しい情報さえあれば、
朗読者 1 人々は正しい行動をする。
朗読者 2 それを信じないの。
朗読者 4 政府はね。
朗読者 5 南から来るものが
朗読者 4 南から来るものが
朗読者 6 すべてを
朗読者 2 打ち砕こうとしている
朗読者 3 私たちが築いてきたもの
朗読者 4 人類が築いてきたもの
朗読者 2 誰にも気づかれずに近づいてきて
朗読者 5 すべてを傷つけて、
朗読者 3 自らも砕け散ろうとしている
朗読者 1 そのものとは、大いなる、そのものとは
朗読者 1, 2, 3, 4, 5, 6 彗星
朗読者 6 世界を打ち砕く、そのものとは
朗読者 1, 2, 3, 4, 5 彗星

朗読者 5 その成分は、99%、氷なんだから。

朗読者 6 ということは

朗読者 1、2、3、4、5 空から、氷

朗読者 1 恐竜たちに降り注ぎ、彼らの命を奪ったのは隕石。

朗読者 2 私たちに降り注ぐようとしているのは氷？

朗読者 3 水よ。大気との摩擦熱で溶けるはず。

朗読者 4 大量の水。

朗読者 5 太古、海は宇宙からもたらされた。

朗読者 6 これからもたらされるのはもうひとつの海。世界をのみこむ大量の水。

朗読者 3 海水の量が今の倍以上になれば

朗読者 4 陸上のすべての命は飲み込まれるだろう

朗読者 1 人類絶滅まで2カ月かからないだろう

朗読者 6 ノアの箱船は、物語だ。

朗読者 2 もちろんそう。現実じゃない。

朗読者 5 ああ。

朗読者 3 ああ、神様、神様。

朗読者 4 私たちはどうなってしまふのだろう

朗読者 3 世界はどうなってしまふのだろう

朗読者 4 分からない。

朗読者 1、3、4、5、6 不安、人類史に終わりが来る不安。

朗読者 2 世界を包む不安。

朗読者 1、3、4、5、6 すべての文明が砕け散ってしまう不安。

朗読者 2 私の命が失われる不安。まだ20歳なのよ。

第8場 そのバックネットのバランス3

馬場 (弱っている) なんの罰ゲームやねん。なんの罰ゲームやねん。こんなところで、

熊とにらめっこって。どうやねん。

八木 先輩。おれ、もう無理かもしれないです。

馬場 落ちんなよ。

八木 手に力が入りません。

馬場 落ちたらおまえ

八木 熊に食われますか

馬場 このネット倒れるやないか

八木 先輩も食われてしまいますね。ははは。

馬場 笑うな。

八木 死ぬ前に、水飲みたいな。

馬場 飲んだらええやないか

八木 水筒がないんです。走っているうちにどっかで落としてみたいで。先輩、持つ

てるんですか。

馬場 持つてるけど

八木 けど、なんです

馬場 おれのや

八木 一口だけ、飲ませてもらえませんか？

馬場 おれのやいうとるやろ

八木 一口だけ

馬場 少ししかないんや

八木 (間) 先輩。

馬場 なんや

八木 アマゾン川委員会って知ってはりますか？

馬場 なんの委員会やて？

八木 アマゾン川。いくつもの国を流れて流れている川っていうのが、世界にはある

八木 ンですよ。ナイル川とか、メコン川とかね。国際河川っていうんですけどね。

馬場 ものしりやな。

八木 アマゾン川ではね、委員会をつくったんです。南米の、多くの国が集まって、

川の水量を計算して、うちの国では小麦をこのくらい作る、水力発電でこのくら

い水使う、工場排水はこんくらい流すねん。だから水がこのくらいいるんやって

インターネットを使って、みんな話合って、どのくらい使っているかを決め

八木 てるんですわ。そういう話し合いの場ができたんですよ。

馬場 人類は、そこまで来たんですよ。水を取り合って、石油を取り合って、戦争を

八木 していた時代から、話し合って、殺し合うことなく、傷つけあうことなく、お互

いの財産である水を分け合う。それができるんです。戦争でなく、話し合いです。

馬場 人類は。動物とは違うんや。

八木 それがどうしてん。

馬場 分らないですか。ぼくらは、バックネット委員会ですよ。

八木 なんやそれは。

馬場 持っているものを奪い合うんでなく、分け合いですよ。二人とも、少しでも

長く生きるために、協力しましょう。水を分け合いです。先輩、ぼくらは、人

馬場 類や。それができる。あそこにいる熊たちとは違う。そう思いませんか？

馬場 来いや。

馬場、水筒を取り出し、八木に差し出す。八木飲む。

馬場 八木。

八木 はい。

馬場 映画の話せえや。

八木 この期に及んで、まだ聞きたいっすか。

馬場 ええやないか。途中まで聞いたんや。続き知りたいやないか。

八木 占いの館に、今度は若い男が訪ねてくるんですわ。先輩とは真逆のタイプ、い
うたら、草食系いうんすかね。植物系いうんすかね。

バナ、登場。

八木と馬場の背中に羽がはえてくる。

馬場 飛べるで、今度こそいけるかな。

八木 無理ちやいますかねえ。ちやちやもん、これ。

第9場 水と魚と人をのろう女3 熱帯水槽

バナ 入っていいよ。

健一登場。神経質そうな青年。

バナ 若者よ、恋の悩みかね。何を占ってほしいのかな。

健一 実は（口もる）

バナ 遠慮することはないね。悩みは人それぞれ。アフリカ仕込みのこのバナさんは、どんな悩みでも聞くよ。口も堅いね。何でもぶつけていいね。何でも占ってあげるよ。

健一 実は、占ってもらうために来たんじゃないんです。

バナ おー、これは意外意外。（自分を指さし）バナさんは占い師ね。善良な占い師のところ、他に、どんな用件で来られたのかなー。

健一 あの、人を、呪い殺してくれるって聞いて。

バナ 大きな声、ダメね！

健一 え？

バナ 人に聞かれたら大変ね。呪いかけるの、私の裏の稼業。ばれたらやばいよ。

健一 すいません。

バナ 誰を呪い殺してほしいね？自分をだまして捨てた、女？

健一 そうじゃありません。

バナ 許せない上司か？

健一 そういうわけではありません。

バナ ではどのような人に、私に呪いをかけてほしいね？

健一 実は、名前も知らないんですよ。

バナ 知らない人を殺そうなんて、見かけによらず凶暴ね？

健一 これには事情が。

バナ 聞くよ。

健一 何から話せばいいかな。

バナ あなたの、そうね、仕事から。

健一 港の近くの、水族館に勤めています。

バナ え、そうなの？私ときどき行くよ。アシカショー大好き。

健一 アシカショーの担当ではありません

バナ イルカショーも大好き

健一 僕は熱帯水槽を担当しています。

バナ 何それ。

健一 熱帯地方の魚ですね。フエフキダイとか、チョウチョウオとか、そういう日本ではなかなか見られない魚を入れた水槽ですよ。管理が難しい。

バナ 珍しいね。

健一 そう、珍しい魚が多いんです。

バナ いや、そうじゃなくてね。そういう仕事って楽しいでしょ。

健一 大変だけど、やりがいがありますよ。

バナ 楽しい仕事をしている人が、人を殺したくなったり、するもんかね。

健一 かなり変な話だね。事実なんだけど、信じてもらえないかもしれない。僕も、自分の頭が変になったんじゃないか、とずいぶん悩みました。

バナ どんな話ね。興味あるね。

健一 最初は昨年、野球の試合を見に行ったときでした。

バナ あんな難しいスポーツ、日本人好きね？

健一 僕はそうでもないんですが、友人に誘われて。

バナ そこで何があったね。

健一 満塁ホームランが出て、スタンドでウェーブが始まったんです。

バナ 野球わかんないから、今の話は分からないね。

健一 得点が入ったときに、みんなで祝福するんですよ。こうやって、スタンドで多くの人間が立ったり座ったりして、波を作る（やってみせる）

バナ おー、面白いことをするね。アフリカ人なら、太鼓をたたいたり、ラッパを吹

健一 いたりするね。波を作ってどうするね。
そのとき、あいつに気づいたんだ。

富樫、登場。健一とまったく同じ服装。

健一 上から下まで、僕とまったく同じ服装。

バナ そんなことで、殺してしまいたくなるのは、見かけによらず凶暴ね。ユニクロで、偶然同じ服を買ってしまったことはきつと、あるね。

健一 その1回だけじゃないんですよ。

バナ まだあるね。

健一 電車に乗ってました。

電車の音、駅のアナウンス。富樫、健一と同じ服装で、地下鉄に乗り込んでくる。

健一 外は土砂降りでした。まるで水のトンネルの中を走っているみたいで、外が見えない。窓はシャワーを浴びせられているように水がはじけているのが分かる。

発車し、富樫に気づく健一。

健一 また、同じ服装だ。上から下まで。

読んでいる本が同じであることにも気づく。

健一 同じ本を読んだ。

富樫、退場していく。

健一 これだけでもないんです。

バナ まだあるね。

健一 クラブに行ったんですよ。職場の仲間と、踊りに。

健一、派手なシャツ姿になる。音楽。健一、やや奇妙な踊りを踊っている、まったく同じ服装の富樫が飛び出し、やはり奇妙な踊りをしながら健一とすれ違う。

健一 またあいつだ。

富樫、健一に気づかないのか、楽しそうに、生き生きと踊りまわる。

健一 どういうことなんだ。

バナ 偶然ってことはあるね。気にしすぎかもよ。

健一 そしてついに。

バナ まだあるね。

健一 仕事場にまで、彼が現れたんです。

バナ 水族館。

健一 そうです。グラスキャットフィッシュの水槽の前。

バナ なに、それ、魚。

健一 魚です。ガラスみたいに透明なんです。だからグラスキャットフィッシュ。変わった魚だね。

健一 僕はその前にいた。仕事中だったから、作業服でした。

健一、作業服になっている。

健一 僕は、グラスキャットフィッシュが好きで、いつも見とれてしまう。なんてきれいなんだろう、と。よく見ないと、水と一体となって見つけられない、熱帯の魚の群れ、まるでたくさんの魚の目と、背骨だけが、水槽の中でゆらめいているように見える、そんなガラスの魔法。その前に、彼がゆっくりと現れた時、僕は何か揺らぐように感じた。

作業服姿の富樫が静かに登場。

健一 作業服を着て1人で水族館に来る客が何人いるんだろう。もちろん、いるにはいる。でも、グラスキャットフィッシュの水槽をはさんで向かい合って、また上から下まで同じ服装の彼が、立っているのを見た時、僕は足下が崩れていくように感じた。まるで、あそこにいるのが本物で、ここにいるのは水槽に写った彼の影なのかもしれない。ここに存在するのは本当に2人の男なのか。本当は1人で、どちらかが影とか、幻に過ぎないのではないか。

えっ。

健一 そう、この日はいつもと違った。彼は僕の存在に気がついたんです。しばらく、僕たちは透明な魚の群れが泳ぐ、水槽をはさんで、見つめ合っていました。

面白いね。

健一 面白くありませんよ。僕は、自分が消えてしまうかと思った。自分は彼の水槽に写った影で、電気を消せば消滅してしまうんじゃないかと。まるでグラスキャ

ットフィッシュのように透明になって、熱帯水槽の中に溶け込んでしまい、誰にも気づかれなくなってしまうのではないかと

人なんだから、消えてしまうことはないね。

そうなんだ。でもそういう不安を感じるのは、なぜだろう。(間) しばらくして、彼の方が動いた。日曜日の人混みの中に、静かに消えていった。だいじょうぶだ。僕はいる。存在している。

富樫、去る。

バナ それで分かったね。

健一 何が？

バナ 彼は、実在するね。

健一 当たり前だ。実際見たんだから。何度も。

バナ 最初はあんたの幻覚かと思ったよ。ドッペルゲンガー現象っていうのかな。そうじゃない。実在するんだ。ならば、呪いをかけることはできるね。

健一 最初感じていたのは、いらだち、不快感でした。でもだんだん、その気持ちは変わってきた。恐怖にです。僕、とても怖いです。雨の日に窓を見ていました。2つの水滴が左右から窓を伝う。それは1滴の水滴となり、そのまま流れていく。そんな風にして、自分とあいつはひとつになってしまっただけで、誰も気づかないまま、自分というものがなくなってしまうのではないかと。そういうことじゃないか。もうやつを殺すしか、自分が生き残ることはできないんじゃないか。

バナ それで、ここに来たね？

健一 怖いんだ。僕はやっかに殺される夢まで見たんだ。

バナ 夢を見たのか。

健一 そうなんだ。恐ろしい夢だった。今でも細かいところまで思い出せる。

バナ (喜ぶ) それはいいね。思い出して、思い出して。

健一 原発事故の夢だよ。

バナ 夢は流れてる。流れてるものなら、私はなんとかできるね。

健一 は白い防護服を身につける。

健一 水族館から20キロ離れた原発で事故が起きるんだ。水族館のスタッフはみんな退避するんだけど、魚たちにえさをやるために1日1人、当直を置くことにならんだ。独身のスタッフが選ばれて、線量計を持って、防護服を身につけて、えさをやりながら、水族館の中で1日を過ごすんだ。24時間を過ごして、交代の男がやってくるんです。静かな雨の夜、水族館の明かりは消え、水温を管理する装置のブーンという音だけが響く。そんな中、足音が。

富樫、白い防護服を着て現れる。

健一 またあいつだ。

バナ はー。

健一 水族館のスタッフじゃない。

健一、富樫、顔を近づけ合って立つ。

健一 このやろう、いつもおれと同じ服ばかり着やがって。

富樫 仕方ないでしょう、このシチュエーションでは。

健一

どういいうつもりなんだ。

富樫

どういいうつもり？あんだこそどういいうつもりなんだ。あんだ、あんだって人のつもりなのか。他人と違う、あんだって人なのか。ふざけるな。

健一

ふざけてなんか。

富樫

同じ服装をされるのが嫌なのか？今は非常時だ。非常時じゃないっていうのか？そんな意見、誰に言ったって通らないぞ。非常時にはみんな、同じ服装だ。世界中のどこの軍隊が個性ある服装を認めているんだ。どこの警察が？どこの消防署が？どこの原子力発電所が？どこのプロサッカーチームが？おれたちは同じ服装で戦うんだ。そこに一体感があり、勝利に向かうためのチームワークでもあるんだ。

健一

おれは。

戦っていない時のことを言っているんだ、ってか。は？戦っていないおまえに、価値なんかあるもんか。チームの一員でない、一人のおまえになんか。自分は人と違う、自分の個性ってものがあるんだ、おまえそう思っていないか。それは思い込みだ。

健一

思い込み？

富樫

おまえに個性なんかあるものか、結局、大勢の中の一人、たくさんの水滴の中の1滴だよ。おれたちは。ただ、流れに合わせ、流れの中で、流れていくだけだ。生きていたって、死んでいたって、誰も気にしたりしない。コピーのひとりつき。

健一

それは違う。

富樫

違いはしないさ。結局、おまえはコピーのひとりつなんだ。おまえなんて、いなんだ。熱帯水槽の電気をつけな。

健一

節電を指示されているんだ。

富樫

うるさい。つけろ。

健一、壁のスイッチを操作する。照明がつき、巨大な「熱帯水槽」が浮かび上がる。水槽の中には、黄色いチョウチヨウチヨウオの大群がひとつの方向を向いている。

富樫

こいつらと同じさ。チョウチヨウオの中のどいつが他のどいつと見た目が同じだって、悩むんだ。みんな同じ姿だ。フエフキダイだって。同じ姿じゃないっていうのか？同じだろ。キイロハギも、ノコギリダイも、回遊するイワシも。これと同じさ。おまえなんかいないんだ。水滴のひとつさ、他の水滴と当たって消えちまうのさ。

健一

それは違う。

健一、富樫につかみかかると、簡単にねじふせられる。富樫は健一の防護服の顔の部分をもしりとってしまふ。

富樫

放射線でもくらうんだな。

健一、倒れたまま悲鳴を上げる。富樫は高笑いしながら退場。沈黙。健一、起き上がり、あわてたようにあたりを見回す。

健一

どういうこと？ここで目が覚めたはずなのに。

バナ

あんたの夢の中だよ。

健一

え、どういうことだよ。

バナ

だから、あんたの夢の中に今、2人で来ているんだよ。夢はあたしが巻き戻しておいたよ。

健一 は？

バナ 夢は巻き戻しておいたよ。だから、今、夢が始まるところだよ。

健一 どういうこと？

バナ

人を呪い殺すより、簡単ね。あんたはその、殺そうとしていた彼に負けっぱなし。それがいけないね。1回、やっつけないかね。そいつにやられたことを、やり返せばいいね。血の中の渦巻きが、正しい方向に巻き始めるにはねさ、あたしは隠れてみているからね。さ、「ハムレット」が始まる（壁のスイッチに触れて、熱帯水槽の電気を消す。隠れる）。

健一 立ち尽くす。そこに足音。白い防護服の富樫が現れる。2人、向かい合う。

健一 このやろう、いつもおれと同じ服ばかり着やがって。

富樫 仕方ないでしょう、このシチュ……。

健一 どんなシチュエーションだろうが、関係ない。おまえはおまえで、おれはおれだ。同じ人間じゃないんだ。同じようなもんだって言うつもりか。ふざけるな。

富樫 ふざけてなんか。

健一 人と違う服装をするのが嫌なのか？誰かと同じ人間なら、安心できるだろうさ。今は非常時だと言って、みんな一丸となって、乗り越えようって、一緒に我慢するんだって、言えば、楽だろうさ。でもそうじゃないんだ。おれはおれ、おまえはおまえだ。そうじゃないって言うのか？そんな意見、誰に言ったって通らないぞ。一人ひとりがすべて、違う人間だ。おれは俺の痛みを感じ、おまえはおまえの苦痛にのたうつんだ。同じじゃないんだ。

富樫 世界中のどこの

健一 「軍隊が個性ある服装を認めているんだ」ってか。戦争で死ぬときは、おまえ

は一人の個人だよ。全体の中の一人じゃない。自分の痛みを抱えて、自分の絶望を抱えて、自分の孤独を抱えて死ぬんだ。体の一部を吹き飛ばされて、血だらけになって、泥沼にひざまでつかって、立ったままだな。そこに一体感もなければ、高揚感もない。国家もない。チームワークもない。あるのはおまえの痛みと孤独と不安だ。おまえが死ぬんだ。おれが死ぬんだ。

富樫
健一

おれは。

一人の人間に、価値なんかあるもんかって言うのか。あるのさ。一人ずつそれぞれの価値があるんだ。生きていていい理由があるんだ。だから苦しいんだ。一人ひとり、他の人間と違うんだ。おれも。おまえも。それが生きているってことだ。自分には個性なんかない。おまえそう思ってないか。それは勘違いだ。

富樫
健一

勘違い？

おれたちは一人だ。結局、大勢の中の一人、たくさんの水滴の中の1滴だっと思ってるだろ。ただ、流れていくだけだ。そんなことはない。人間は水滴じゃない。ワイパーで拭い取ったりできない。おれたちは水滴じゃない。何かのコープーでもない。おれはおれだ。おまえはおまえだ。その苦痛に耐えなきゃいけないんだ。

富樫

それは違う。

健一

違いはしないさ。おれはいるし、おまえもいるんだ。熱帯水槽の電気をつけろ。

富樫

節電を指示されているんだ。

健一

つけろ。

富樫、壁のスイッチを操作する。照明がつき、巨大な「熱帯水槽」が浮かび上がる。水槽の中には、黄色いチョウチョウウオの大群がひとつの方向を向いている。

健一

こいつらだってそうさ。一匹一匹、違う魚なのさ。こいつの命はこいつの命、他の命と取り替えたりできない。同じ姿だ？。よく見るんだ。一匹一匹、違うんだ。少しずつ違うんだ。よく見ろ。お前もいる。おれもいる。命を持つてる。そうじゃないっていうのか？よく見ろよ。おれたちは水滴じゃないんだ。他の水滴とあたって、なくなったりはしないんだ。

富樫、健一につかみかかるが、健一は簡単にねじふせる。防護服の顔の部分をむしりとりとうとして、やめる。健一、脚立を立てて、熱帯水槽に登り、ふたを外す。

富樫

やめろ。水槽が汚染される。

健一

うるさい。

健一、透明な魚を一匹、つかみ出して見せる。

健一

見えないが、これは魚だ。存在する命だ。

富樫は逃げ去る。健一は元の服装に。

バナ

(拍手する) よくやったね。

健一

これでよかったのか。

バナ

あんたは水滴じゃない。ワイパーで拭われて、なくなったりしないよ。

健一

ありがとう。

バナ

夢の巻き戻し料を置いて行ってね。5000円でいい。

健一

分かりました (金を置く)。なにか、心が軽くなった気持ちがあります。ありがとう

とう。

健一 バナの部屋を出て待合室へ。

健一 (待っている男に声をかける) お待たせしました。

同じ服装をした富樫がいた。

健一 呪い殺しに来たのか、僕を。そんなわけにはいかない。僕は、水滴じゃない。ワイパーで、拭い去れたりしない。

健一、ドアを開け、外に出る。また、健一と同じ服装の別の男が歩いてくる。さらに同じ服装の別の男、さらに同じ服装の別の男。健一、立ち尽くす。

健一 水滴じゃない。ぬぐい去られたりしない。水滴じゃない。消えたりしない。

健一、歩み去る。

第10場 バッターズ3

朗読者1 2013年度CIAファイル、重要度不明、リスク判定不能。キーワード、
水

朗読者2 みんなどうしてる？

朗読者3 生きてるよ。人生の最後の時を生きてる。

朗読者 4 もうすぐ死ぬけど。
朗読者 5 理解できずに苦しんでいる。
朗読者 1 自分の運命を。
朗読者 6 運命なんてあるのか。
朗読者 1, 2, 3 ない、いや、ある。
朗読者 4, 5 ある。いや、ない。
朗読者 2 どの国も、正式に発表していない。人類の運命を。
朗読者 3 最後の努力をしているのね。
朗読者 2 でももう無理なんだわ。
朗読者 4 公表すべきなんだ。人類が減びると。
朗読者 3 パニックを恐れているのね。
朗読者 5 みんなが最後の時を知るべきだよ。
朗読者 6 そうすればみんなが最後にすべきことをするだろう。
朗読者 2 家族に別れを告げるとか。
朗読者 3 私、ダイエットをやめるわ。好きなだけアイスクリームを。
朗読者 4 貯金を全部下ろして、そうだね。ラスベガスに。
朗読者 5 祈る。
朗読者 6 おれは祈らない。最後の時を見届けるさ。
朗読者 3 私、どんな風に死ぬの？
朗読者 2 ハンナ、それは考えない方がいいわ。
朗読者 6 考えなくても、もう2日後には彗星は地球に衝突する。
朗読者 5 想像しなくても、おれたちは生き残れない。
朗読者 4 大量の水が世界に降り注ぐまで、あと2日。
朗読者 3 でも知っておきたい。私はどんな風に死ぬのか。

朗読者 5 ユリ、最後に言いたいことがあるんだ。

朗読者 4 ハンナ、教えよう。

朗読者 6 ダン、教える必要はないよ。

朗読者 2 何？最後に言いたいことって。

朗読者 5 ユリ、君のことが好きだ。

朗読者 2 こんな時に何を言っているの。

朗読者 4 彗星はほとんどが氷だ。大気との摩擦で溶ける。大量の水が世界のどこか、

たぶん海だろう。そこに降り注ぐ。地球上の海水が、一瞬にして、今の2倍の量になるんだ。

朗読者 6 ダン、やめろよ。

朗読者 5 ユリ、君にステディな彼がいることは知ってる。でも、今、それが何の意

味があるだろう。今、彼は君のそばにいるの？

朗読者 2 いいえ。もうけ話があるからって、仲間と山に登って、それっきり。

朗読者 5 君のことを本当に思っているのは彼じゃなくて、僕だ。たとえ、遠く離れ

ていても、外国人であっても、それは僕だ。2日後にみんな死ぬとしても

朗読者 6 それは真実だ。

朗読者 4 ハンナ。海は膨張を始める。陸へ陸へ。まちをのみこみ、やがて山をのみ

こむ。ハンナ、君はいつももの大学のランチルームにいる。素晴らしい秋晴れだ。天井も、壁もガラスで、美しい山並みが窓の外で白く輝く。

朗読者 2 グンナール、ありがとう。でももう遅いかな。

朗読者 5 君と出会った時、心が騒いだ。君が国連ビルの前で、僕の冗談で初めて笑

ってくれた時、もつと心が騒いだ。でも僕は気づいてなかった。恋だって、分かっ

朗読者 4 海は、轟音を立てて、大学に迫ってくる。家々を倒し、木々を折り曲げ、

電柱をねじふせる。君は、手元の携帯電話が急に圏外になったのに気づく。顔を上げると、ランチルールのテレビの画面が、静かに消える。

ユリ、それからは、君のことばかり考えてる。詩をつくったんだ。君のことを思いながら。

朗読者 2

詩をつくったの？こんな時に？

朗読者 5

へたくそな詩だけど、読んでほしいんだ。

朗読者 4

やがて、揺れが始まる。水が近づいてくるんだ。だれかが、絶望的につぶやく。

朗読者 6

ウオーター。

朗読者 5

動物園のカバが昼寝をしても／その見えない血管の中には／ザイールの輝く川が音を立てている

朗読者 2

グンナール

朗読者 5

空港に向かう地下鉄で君が笑顔を見せると／君の足下からわき起こった水が／僕の肩へとひざへと落ちかかり／滝の奥の深い森が／車両の側壁を覆い隠していく／そのジャングルでは／鳥のような声で猿が叫ぶ

朗読者 4

やがて水がランチルールのガラスの壁に突き当たり、水かさを増していく。君は見るだろう。まちから流されてきた車、家、荷車、郵便ポスト、そういったものがランチルールの壁にぶつかるのを、そして、ガラス 張りの天井の上を転がるように流れていくのを。

朗読者 5

ボールの隅で／君が突然涙目になる／思い出したんだ／日本のまちのことを／残してきた家族や恋人のことを／僕の背後の星座たちから／飛び出してくる怒濤／僕は何かに飲み込まれながら／君を見ている

朗読者 4

ガラスの中は、ランチルールの静かだろう。だれも何も言えない。自分の運命を受け入れ、ただ、呆然と、水を見つめるだけだ。

朗読者 5

その流れがどこへとつながり／どんな森を生み出すのか／わからない／た
しかなことは／車両の側壁に／誰かがいたずらで張ったシールははがせる／だ
れかがはがすだろう／でも空から星座をはがすことはできない／川は海につな
がり／その水を消すことはできない

朗読者 4

そして君は見るだろう。ガラスの壁をついに、流されてきた観光バスが突
き破る。足下に刃物のような冷たさで水が流れ込んでくる。初めて、誰かが悲
鳴を上げる。背後でも、大きな音。今度は漁船だ。天井のガラスを突き破って、
へさきを下にして、ランチルームの吹き抜けの階段に、すさまじい音を立てて
落ちてくる。大量の水とともに。

朗読者 5

足下の奔流にとまどいながら／何を飲み込むか分からない／頭上の滝にこ
ころ打たれながら／僕は君を見ている／ずっと

朗読者 4

その時、君は思うだろう。

朗読者 3

ああ、ここで死ぬんだ。私はこれから死ぬんだ。

朗読者 4

君はきっと自分があまりにも小さい存在だと思うだろう。巨大な海の前
のわずか1滴の水滴。それに過ぎないと。

朗読者 2

グンナール、ありがとう。

朗読者 5

ユリ、ありがとう。

朗読者 4

ハンナ、おれは今、窓を伝う雨の滴を見ている。他の滴とぶつかり、消え
ていく。2日後に俺たちに起こることは、結局、そういうことかもしれない。

朗読者 3

そうね。そうかもしれない。

朗読者 1

そして、そうではないかもしれない。

朗読者 3

血の渦巻きは、終わりを知っているかもしれない。
すべては、終わるかもしれない。

全員

第11場 そのバックネットのバランス4

馬場、八木はバックネットの表側にいる。裏側には中国人2人、チャンとシユウ。4人は、力いっぱい、ののしりあっている。

馬場

おまえら来るな。ここはおれらがずっとおったんや、おまえらのぼってきたら倒れるかもしれないか。おれらの領土や、侵略する気か、われ。どういうつもりじゃ、われ。ぶち殺すぞ、こら。

チャン

日本人、勝手なこと言うな。熊いるんだ、食われると言うのか。こら。おまえらの都合ばかりでもものいうんではないぞ。これが（バックネットをたたき）おまえらの所有物とでもいうのか、日本領だともいうのか、その誤りに気がつかないのか。なにをいってるんだ。殺してやろうか。殺すぞ、こら。

八木

やめろよ。これぐらぐらやで。4人もつかまって、もつかどうかわからんで。先輩。やめてください。暴れたら、これ倒れますよ。4人とも熊に食われてしまいますよ。

シユウ

やめろ、これ不安定だ。おまえら落ち着け。命が大事だ。日中友好でいこう。これ倒れたら逃げるところがないだろ。熊に食われたいのか。おまえらいい加減にしろ。チャン、すぐ頭に血が上るの、おまえ何とかしろって言っただろ。日本人も落ち着け。ここは停戦だ。日中友好だ。

チャン、拳銃を取り出し、馬場に向ける。一瞬沈黙。

八木
馬場

やめろ。
なんや。

八木 こいつ、拳銃持ってます。

馬場 上等や。撃ってみい。

八木 先輩が撃たれて落ちたら。

シユウ このネットこっちに倒れるじゃないか。チャン、やめろ。

八木 やめろ、みんな死ぬぞ。

馬場 撃ってみい。へたれ。

八木 先輩もやめてください。

馬場 根性なしか、おのれ。撃てへんのか。ほら、撃ってみい。へたれ。

シユウ チャン、撃つんなら、熊を撃て。

馬場 おら、撃ってみい。

八木 熊を撃てよ。熊を撃てばいいじゃないか。人を撃ってどうするんだ。

馬場 おれを撃つんやろ。ほら、やってみい。

シユウ チャン、熊を撃て。 SHOOT THE BEAR・チャン、SHOOT

THE BEAR・YOU UNDERSTAND? SHOOT THE BEAR

八木 熊を撃つんだよ。熊を撃てって。

馬場 おれを撃つんやろ。とっととやれや。根性なし。ほら、撃てや。こら。イン

ポ野郎。撃てや。

チャン、馬場に向けて2発撃つ。間。

馬場 はーっ。このどへたくそ。この距離で外すってどういうことやねん。へった

くそやのう。あほー。

チャン 調子に乗るな。この野郎。次は当ててやる。

シユウ チャン、いいかげんにしろ。
八木 あ。

4人、一方向に注意を引きつけられる。

シユウ ウォーター！

八木 この野球場、スプリンクラーだけ生きてたんや。

馬場 こんな廃墟に水まいてどうすんねん。

八木 あ。

馬場 どうした。

八木 熊逃げた。

馬場 熊って、水嫌いなんかな。

4人 あ。

全員、バックネットを降りて走り出す。

第12場 巨大彗星の回避

洞窟の中。泉の中にバナがいて、祈りをささげている。泉のそばに牛山と鹿田、少し離れて健一と啓子が真剣な面持ちで立っている。馬場、八木が登場、様子をうかがう。

八木 先輩、あれっすかね。
馬場 あれやな。

八木

P W っすね。

馬場

パーフェクト・ウォーターやな。

八木

でも、おばさんが中に入ってます。

馬場

おばさんが入ってるな。

八木

おばさんが入ってる時点でパーフェクトとは言えないんじゃないですか？

馬場

細かいこと言うな。ここは、勝負所や。気合い入れろ。

八木

はい。

馬場

なめられんな。

八木

はい。

馬場

(強面風に近づくが、その場の雰囲気の様々に気づいて、とりあえず下手に出る) お取り込み中、失礼します。

牛山

なんです。

鹿田

本当に取り込んでいるんだが。

馬場

失礼します。この土地の所有者の方を探しているのですが。

牛山

私は所有者の一人です。

馬場

話が早い (振り向いて八木とハイタッチ)。この土地を買いたいという人が

牛山

いてね。私はま、仲介業をしているんですが、土地の売買について、話をする場

馬場

を持ちたいんですわ。お願いできませんか。

牛山

仲介の必要はありません。あなたもまた、所有者の1人です。

馬場

めっちゃ、話が早いやないか (振り向いて鹿田とハイタッチ、逆に振り向い

牛山

て) えーっ。どういうこと？

牛山

この土地は昨日、日本政府が買いました。いわば、日本国民の所有物になっ

馬場

たわけです。見たところ、日本人みたいなので、あなたも、あなたも、私も、こ

牛山

の人たちも、所有者。

八木 先輩。

馬場 なんや。

八木 地上げできませんやんか。

牛山 地上げは無理だねー。あきらめて。

鹿田 牛山課長、この人たちにも協力を求めては。

牛山 そうだね。このままだとき、人類はあした滅亡しちゃうんだ。なんとかしようとしているだけとき、君たち、手伝ってよ。

馬場 何言ってるんの、この人。

鹿田 (ノートパソコンを開き、馬場と八木に見せる) これがきょうの地球です。

これがバッテリーズ89番彗星。ほうき星ですね。それで (操作する) これがシミュレーションです。明日どうなるかの予測図ですね。

八木 ぶつかってる。

牛山 人類、全滅だ。おそらく、2カ月もかかんない。

馬場 えーっ。なんとかせえよ。

牛山 各国、ミサイル撃ったり、いろいろしたんだけどね。

鹿田 これがリストです。左側が国で、真ん中が衝突回避策、ミサイルとか、人工衛星とか、いろいろ書いてるでしょ。右側が、結果。

馬場 ほとんどNR。なんや。

鹿田 ノー、リサルト。結果なしです。

牛山 ×印でもいいんだけどね。外務官僚というのは、英語使いたがる人たちでさ。空白が一つある。

牛山 あ、それ北朝鮮のミサイル。

鹿田 ないのと同じ。

馬場 それであんたたちは。

牛山

どこの国ももう万策尽きてね。もうまじない師に頼もうってことになって、世界の有力なまじない師20人を選んで、おまじないしてもらってるのよ。あ、だめもとでね。あの人、20人のうちの1人。

八木

だめもと？

馬場

じゃあおれたちは明日死ぬわけ？

鹿田

(バナを指し) あれがダメだとね。

バナ

ダメだわ。(祈るのをやめて岸に向かってくる)

八木

バナさん。

バナ

おや、あんた、私の名前知ってる。友達か。

八木

いやそういうわけじゃ。

牛山

ダメですか。

バナ

竜が体の周りに氷張ってる。眠るとき、そうするんだ。あれを破らないと、

声が届かない。

馬場

竜？

牛山

彗星を破壊するのが無理だから。

鹿田

地球が動くスピードを上げようと。そうすれば彗星をかわすことができる。

八木

すげえ。アタマいい。

馬場

そんなことできるわけないだろう。

バナ

地球の真ん中には竜がいてね。この世界を動かしてる。急いだ方がいいとい

う声が伝われば、彼は翼を動かす。地球が流れる早さをそれで変えられる。他の

方法では、無理ね。

馬場

あんたたち、こういう話を信じてるわけ。

鹿田

言っただろ。ダメもとだ。流れるものをなんとかできる魔法使いなんだけど

ね、流れ星は、自力では無理だって。

牛山

で、ダメなの。

バナ

こういう時のためにあんたたちに来てもらったわけさ。

健一

えっ

啓子

あたしたちって

バナ

竜の氷を砕くには、言葉をぶつけるしかない。いいか。泉の真ん中に立って、

啓子

地球の奥にいる竜に向けて言葉をぶつけるんだ。

バナ

どんな言葉をさ。

健一

自分で考えるのさ。

牛山

自分で？
なんか呪文とかあるんじゃないの？

バナ

いいか、人間がぶつけられる一番重いものが言葉だ。魂をちぎったもの、そ

啓子

れが言葉だからだ。魂をできるだけ大きくちぎって、それをぶつけるんだ。

バナ

分かんないよ。

健一

一人一人、違うんだ。あんたの言葉をぶつけるんだ。

バナ

分からない。僕にどんな言葉があるっていうんだ。

啓子

自分で見つけるんだ。

八木

わかんないわ。

バナ

じれったいな。(泉に飛び込み、叫ぶ)地球をなんとかしてくれ。

八木

それじゃダメだ。きのうきよう魂の表面に出てきた言葉をぶつけてもダメだ。

八木

魂を大きくちぎるんだ。できるだけ大きく。
おれは、いっぱい、いい思いがしたい。(叫ぶ)。

氷の音

バナ
馬場
そっちの方がいい。
あんなんでええんか。

牛山、泉に飛び込む。

牛山
鹿田
おれは官僚なんかやめたいんだ。演劇がやりたい。
ええっ。

氷の音。けっこう大きい。

バナ
馬場
おれ？
そうだ。そういうのでいいんだ。
（馬場を振り向き）あんた行け。

バナ
馬場
そういえばあんたに伝言があるよ。

バナ
馬場
おれに伝言ってだから。

バナ
馬場
あんたからさ。

バナ
馬場
おれから？

バナ
馬場
やけおこさねえで。

バナ
馬場
おこしてへんよ。

バナ
馬場
ちゃんと調理師免許とって。トコハ村さ、けえって。

バナ
馬場
イノシシ料理の店。やめとこ、忘れて。

バナ
馬場
忘れてってどういうことだよ。

バナ
馬場
あんたがそういった。

バナ
馬場
イノシシ料理の店をどうするんや。途中でやめんなや。

バナ
馬場
あんたが途中でやめたんだよ。

啓子 分かった。

（啓子、泉に飛び込む。

啓子 流羅。

氷の音。

健一、泉に飛び込む。

健一 見えないが、それは魚だ。存在する命だ。

氷の音。

馬場 畜生。何の罰ゲームだよ。

（馬場、泉に飛び込む。

馬場 返せ。トコハ村さ、けえせえ。

大きな氷の音。

バナ いいぞ。もう少しだ。

バナ、泉の中央へ進む。

バナ

あたしの先祖は初めて山で炎を見つけた。それで本当に良かったのか。曾祖父はウランを見つけた。それは罪なのか。罰せられなければならないのか。教えてくれ。あたしはなんなのか。血の渦巻きは、今、「終わり」を探っているのか。

大きな氷の音。

バナ

まだか。

鹿田、泉に飛び込む。

鹿田

オルゴール。

氷の割れる音。

バナ

いいぞ、みんな水をたたけ。

全員、水をたたく。繰り返す。チャンとシユウ、姿を見せるが、呆然とこの儀式に見入る。

馬場
八木

参加しろ。おまえらも。
急げ。世界終わるぞ。

チャンとシュウ、わけがわからないまま、泉に飛び込み、この儀式に参加する

バナ いいか。みんな竜に聞こえるように。言うんだ。ありがとうを言うんだ。

馬場 ありがとうってなんだ。

バナ 竜を動かすには、ありがとうだ。

八木 おれたち、竜に会ったことないから

バナ 今度はあるたちの心をちぎり取るんじゃない。人類として言うんだ。あん

たたちの血の中の渦巻きの声に耳を澄ますんだ。そして、その声を竜に届けるんだ。

人類として？

牛山 いいか、始めるぞ。ありがとうをいうんだ。続けて言うんだ。東京五輪で輝

いた、あの福島のランナーのようにいうんだ。いいか、あたしに続け。ありがとう

牛山 うございました。最初の炎をありがとうございました。

鹿田 音楽をありがとうございました。

健一 言葉をありがとうございました。

啓子 道具をありがとうございました。

八木 文字をありがとうございました。

馬場 ピラミッドをありがとうございました。

チャン パルテノン神殿をありがとうございました。

シュウ 万里の長城をありがとうございました。

バナ アジャンター・エローラ石窟の彫刻群をありがとうございました。

牛山 モーツァルトをありがとうございました。

鹿田 ストラビンスキーをありがとうございました。

健一 ヴァン・ヘイレンをありがとうございました。
啓子 マイケル・ジャクソンをありがとうございました。
馬場 ザ・ブルー・ハーツをありがとうございました。
八木 ピカソをありがとうございました。
チャン ロレックス・デイトナをありがとうございました。
シュウ 物語をありがとうございました。
バナ 紫式部をありがとうございました。
牛山 ガルシア・マルケスをありがとうございました。
鹿田 デモクラシーをありがとうございました。
健一 デイズニールランドをありがとうございました。
啓子 ミュージカルをありがとうございました。
馬場 エビフライをありがとうございました。
八木 マクドナルドをありがとうございました。
チャン アイフォン5をありがとうございました。
シュウ 電気冷蔵庫をありがとうございました。
バナ 原子力発電所をありがとうございました。
牛山 人工衛星をありがとうございました。
全員 人類はもう、走れません。

竜の鳴き声。

バナ いいぞ、水をたたけ。

全員、水をたたけ。

しかし、やがて一人、また一人と前方の何かに気づき、水をたたく動きを止める。表情は恐怖と戸惑いで凍り付いたようになる。最後にバナもそれに気づき、動きを止める。

バナ
熊だ。

牛山
落ち着け、動くな。逃げるとやられるぞ。

八木
どうするんだよ。

牛山
にらむんだ。静かに、目力で、追ひ払え。

全員、熊とにらみ合う。

第13場 エピローグ

バナ、馬場、八木、牛山、鹿田、チャン、シユウ、健一、啓子がバックネットにつかまっている。

馬場
何の罰ゲームだよ。何の罰ゲームだよ。

シユウ
日本人、騒ぐな。倒れるぞ、これ。

馬場
やっつけられへんゆうねん。おまえらええで。おれら、きょうずっとここにいらんやで。

八木
先輩、おれらの羽は結局、役に立ちませんでしたね。

馬場
映画の話で生えた羽は、結局、幻やな。(チャンに) 大体、その中国人、拳銃持ってたのに。

チャン
文句言うな。

馬場 全弾外すってどういうことだよ。どんだけ下手なんだ。
チャン うるさい。やるかこの野郎。
健一 やめてください。
シユウ いいかげんにしろ。これ倒れるぞ。落ち着け。
鹿田 天気いいっすね。
牛山 そうだな。
鹿田 ここんとこ忙しくて、空なんて見てなかった。きれいなもんですね。青くて。
牛山 そうだな。
八木 あのー、それで、地球は大丈夫なんでしょうか。
バナ どうなんだろうね。
馬場 どうなんだろうって、あんた無責任な。
バナ あとは竜次第だね。翼を使えば、私たち助かるね。
啓子 どっちなんだろうね。
バナ 私にはわかんないね。でも、助かると、いいね。
鹿田 熊いなくなったら、野球やりたいな。
牛山 昔、選手だったんだね。
鹿田 ピッチャーでした。もう一度、ボール投げたいな。
健一 僕もピッチャーでした。いいですね。キャッチボール、しますか。
鹿田 そうしましょう。天気、いいしね。

幕。

参考文献

- 大隕石衝突の現実 (日本スペースガード協会) NEWTON社
隕石コレクター (リチャード・ノートン) 築地書館
バラクランジャンのうた (こんどうなつみ) リーブル社
ガダラの豚 (中島らも) 集英社
津波と観音 (畑中章宏) 亜紀書房
となりのツキノワグマ (宮崎学) 新樹社
クマの畑をつくりました (板垣悟) 地人書館